

平成 31 年度 尚恵学園の基本

【Ⅰ】尚恵学園のモットー「理念」 『 共生 』

★自分の力で生きて、働いて、友と寄り添い助け合い
共に良かったと感じたい。

良きサービスを通じて 利用者の心を打つ満足を提供！

創意・工夫・責任・まごころをもって限りない挑戦。★

【Ⅱ】考え方と実践 “常に挑戦者であれ！”

私達を取り巻く環境は、もの凄いスピードで変化しています。年々細かく複雑になる制度や仕組みに現場は翻弄され ゆとりなく 立ち止まる事も出来ずこのまま進むとどうなるのかという不安が増しています。

国の社会保障費が右肩上がりに増え続け、その財源が大きな問題となり、日本の借金の多さは世界の中で突出しています。その解決策も見いだせない中、国は 様々な改革を進めていますが その効果は思うように出ていないのが現状です。

私達は 2 年間をかけ 法人の在り方を検討してきました。

一年目は現場の職員による現状の分析と課題を纏め、2 年目は外部の方々にも加わって頂き 率直な意見交換を行ない進むべく方向を探りました。いよいよ 今年からが実践の年となります。優先順位を決め できる事から始めて行きます。

尚恵学園は 6 2 年間、知的に障害を持つ人たちと共に歩んで参りました。制度がない時代から始まり、7 0 年代後半になってやっと義務教育を受けることが可能となって 多くの方々が養護学校に通いました。その後 大人の施設から通勤寮 そしてグループホームや通所型サービスとゆっくりと着実に歩んできました。

“共生” “常に挑戦者であれ！” という法人のモットーは先輩たちが実践を通して残してくれた貴重な教えです。

昨年 国が掲げた「共生型サービス」は 多様な主体が「我が事」として参画し、世代や分野を超えて「丸ごと」つながることを 目指すというものでした。

日本が今 抱える様々な課題を念頭に置いた施策でしょうが、それを実現する為に一番大切なことは 良き担い手を如何に確保するかという事です。この問題は今後もずっと続くと思います

魅力のある職場づくりに決定打はありません。地道に真心の籠った実践を積み上げ、課題に対し諦めず常に挑戦者であること、更に良きパートナーを育て

チームワークで活動していくこと、その結果 私達が選ばれる施設と成れるのです。

お互いが信頼関係を築き、活気のある事業体になるには まだまだ課題が多く道半ばと言わざるをえません。その意味で 挑戦者なのです。

【Ⅲ】平成 31 年度の重点実施項目。

1 組織の強化

- (1) 拠点毎に 事業目的の周知と各自の役割を明確にし やるべき事を相互に検証しサービスの質の向上を図る。
- (2) 研修や資格取得を推進し人材育成に力をいれ 資質の向上と意識改革を図る。
- (3) 定例の幹部会に於いて法人全体の把握に努め、互いの連携を図る。
- (4) 諸会議の内容と見直し。

2 課題に応じた事業展開。

- (1) 常に 何が課題かを考え、それに応える為に何を行えば良いかを考える
- (2) 気が付いたことを 上司に伝え 後回しにしない。

3 サービスの見直し

- (1) 【継続事項】利用者の高齢化に対応するため「共生型サービスの指定」など、障害福祉と介護保険サービスの円滑な利用促進への調査検討。
* 国の方向性を見極め 指定の是非を検討する。
- (2) 児童発達支援の必要性から、実施可能（療育・相談など）な事業をスタート。
- (3) 定員の見直し、日中活動の定員と実人数との差を無くす努力。
* 人件費率が高くなっている為に 事業収入を増やす努力が必用

【Ⅳ】事業存続の条件

時流を先取りし その準備を前倒しで行うために 職員の配置は 常に定員をオーバーして行っています。問題は 多目の職員の数に慣れてしまい 工夫や配慮を欠く場合が起こり易いこと。

また、会議や研修で得た情報を上手く伝達できないで 折角の良いアイデアが埋もれてしまうことが起こります。

事業の継続には 我々の実践が利用される方に喜ばれ選ばれることが絶対条件、その為には どうするか？ この視点を全職員が持つことが必要です。